

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 小鹿野福祉会	代表者	理事長 高橋 唱平	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・小鹿野町で初めての事業所であり、開所から5年が経ちます。 ・自宅での暮らしを継続するためのもうひとつの家になるよう、住み慣れた地域で安心でその人らしい生き方の実現をお手伝いします。 ・地域の方とかかわり合いながら、29名のご利用者や職員が馴染みの関係を大切に、3つのサービスを譲りあうことで、柔軟なサービスの提供を実施しています。
事業所名	小規模多機能ホーム 巨香の郷	管理者	長谷川 一恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	1人	1人	人	人	5人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、運営推進会議時に視察や体験を継続して実施し、意見を頂きながら運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、運営推進会議に合わせて、委員の方の視察体験を実施し、意見や感想を頂き、事業所運営に反映した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視察をして、季節の行事や地域とかかわることを積極的に行っていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットミーティング時に、事業所評価での改善計画を振り返り、職員の意識を高める。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・外来者に対してのセンサーを30年度に設置した。 ・小鹿野苑（同法人施設）で29年度に防犯訓練を実施。 30年度は、巨香の郷でも訓練を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター共通で、防犯グッズ（サスマタ）を購入し、前回の防犯対策資料を参考に、センターの防犯対策の理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯グッズ（サスマタ）を使った訓練をしてみてもどうか？ ・日中玄関に鍵がかかっていますか？という質問の意味がよくわからなかったが、職員から話を聞いて理解ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3事業所合同で、サスマタを使用した防犯訓練の実施を検討する。 ・今後も、地域交流スペースを活用し掲示展示して、ご利用者の活動の様子を知って頂く。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、立ち止まって挨拶を継続して実施する。 ・法人全体の行事（運動会・納涼祭・お買い物イベント）の開催を回覧・掲示し、地域の方とかかわる取り組みを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が立ち止まって挨拶をする事は30年度のユニット目標であり、徹底して実施した。 そして、毎日のミーティングで暗唱することで周知実践の徹底を図った。 ・周辺地区の回覧を区長を通じて法人全体の行事を回覧したり、地域交流室に掲示をして、地域の方も参加ができるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、よく挨拶をしてくれて、利用者を、家族のように接している。 ・地域の祭りや、行事に参加している様子が情報紙でよくわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もユニット目標を毎日のミーティングで暗唱し、実践する。 ・地区回覧や情報紙を通じて、法人全体の行事の広報を引き続き行う。

<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス計画作成者は、利用者に必要な資源や機関の情報を集め、担当者会議や自宅訪問等を行い介護計画者に反映し、利用者担当と協議をしながら介護計画書を作成し、関わりを通じて本人の暮らしを支える。 ・民生委員の定例会に事業所の説明の機会を設けて頂き、事業所内容の説明に向く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス計画作成者は、様々な情報を収集し、介護計画書作成に反映した。できる限りご利用者担当の職員が、担当者会議へ参加する取り組みを実施。 ・今年度は、地区のサロンに向き、事業所の説明を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の支援はできているが、ご近所の心配な方に事業所がどういう形でかかわっているかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徐々に介護相談(困りごと相談)ができる事業所だと知られてきたので、チラシや情報紙を活用して広めていく。 ・地域の方(近隣の住民)を対象に、見学や体験利用の企画を検討する。 ・行政(地域包括支援センター)や、社会福祉協議会、近隣の事業所と連携しながら、支援が必要な方に必要な支援へと繋げる。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も運営推進会議の意見を活かしながら、情報紙を通じて事業所の催し物の案内を伝え、事業所に行きやすい活動を企画する。 ・30年度より、事業所の介護支援専門員が2名体制になったことで、介護相談を固定日程にせず、随時と明記し、相談を受け付けやすい様に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の意見を頂きながら、催し物や行事のチラシを配布や回覧をして事業所に来る機会を設けた。 ・介護支援専門員が2名となり、情報紙に介護相談を随時として、問い合わせ等に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度の納涼会は、巨香の郷で開催し、センター近隣の住民は出掛けやすかったと話があった。今後も、センターで行う行事を企画してほしい。 ・介護相談を随時としたのは、いつでも相談ができると感じるので良かったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で意見がでやすいよう、センターで行う催し物や行事の企画実施を行う。 ・引き続き、介護相談を随時とし、相談しやすい環境を作る。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度も、活動の一環で近くの避難場所までご利用者と共に歩く計画を立て実施する。その際、ボランティア団体に呼びかけて、協力を依頼する。 ・職員は地震などの緊急時に備え、緊急災害用マニュアルを周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度も近隣の避難場所まで歩いたが、ボランティアの日程や天候に左右されて、ボランティア団体と都合がつかなかったが、ご利用者職員で歩いて、防災の意識を高めた。 ・職員は、緊急災害用マニュアルをそれぞれで読んで周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の防災訓練時に、実際にご利用者が避難場所まで歩いてみてはどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・3事業所合同の防災訓練時に、ご利用者に実際にセンターの避難場所まで歩く訓練を実施する。